

## 2) 調査結果

想定した環境類型区分を生物の出現状況により検証した。

この結果、下流部に分布する「溪流的な川」と上流部に分布する「山地を流れる川」では、魚類の出現状況が入れ替わる結果となった。これは、想定した「溪流的な川」と「山地を流れる川」が、嘉瀬川の上流から下流に向かって交互に分布しており、生息分布を河川の連続性に規定されている魚類の生息分布と相反したことによると考えられる。

このため、河川の連続性の観点から、魚類の種構成により、河川環境類型区分を再区分した。検証の結果、選定した環境類型区分(河川域)を表 4.1.7-17 に、分布を図 4.1.7-9~10 に、概要を表 4.1.7-18 に示す。

表 4.1.7-17 環境類型区分(河川域)

環境類型区分	河床勾配	河川形態	河川敷の主な立地	主な魚類相	特徴等
源流的な川	1/10以上	Aa 型	常緑広葉樹、落葉広葉樹、溪畔林、溪谷林、草本群落(クサヨシ、ツルヨシ)等	種数、個体数とも少なく、タカハヤ程度しか生息していない。	長期間存在する環境である。対象事業実施区域及びその周辺の区域では流路長が短い。地域の生態系にとって、重要な環境であると考えられる。
溪流的な川	1/90~1/30	AaII 型~Aa-Bb 移行型(主に AaII 型)	常緑広葉樹、落葉広葉樹、竹林、草本群落(クサヨシ、ツルヨシ)等	上流域に生息すると考えられるタカハヤ、ドンコが優占する。	長期間存在していると考えられ、対象事業実施区域及びその周辺の区域において流路長が長い。
山地を流れる川	1/160~1/50	AaII 型~Aa-Bb 移行型(主に Aa-Bb 移行型)	常緑広葉樹、落葉広葉樹、竹林、草本群落(クサヨシ、ツルヨシ)等	中流域に生息すると考えられるカワムツ、カマツカが優占する	長期間存在していると考えられ、対象事業実施区域及びその周辺の区域において流路長が長い。
平野を流れる川	1/1,000~1/250	Bb 型、Bb-Bc 移行型、Bc 型	竹林、草本群落(オギ、ススキ、クサヨシ、ツルヨシ)、畑地、自然裸地、人工改変地等	下流域や止水域に生息すると考えられるタナゴ類、カワヒガイ等が生息する	長期間存在していると考えられ、対象事業実施区域及びその周辺の区域の下流において流路長が長い。

注)河川形態とは、1 蛇行区間における瀬と淵の配置や形等で決定されるものであり、以下のとおり区分される。

- ・ AaI 型:1 蛇行区間に瀬と淵が 2 個以上存在する(A 型)。また、瀬と淵の落差が大きい(a 型)。蛇行点の淵と直線部の淵は同型同大である(I 型)。
- ・ AaII 型:1 蛇行区間に瀬と淵が 2 個以上存在する(A 型)。また、瀬と淵の落差が大きい(a 型)。蛇行点の淵と直線部に存在する多くの淵とでは、形にも大きさにも大差がある(II 型)。
- ・ Aa-Bb 移行型:Aa 型と Bb 型の間隔的な形態をもった移行型。
- ・ Bb 型:1 蛇行区間に瀬と淵が 1 個存在する(B 型)。また、瀬は波立ちながら淵に流れ込む(b 型)。
- ・ Bb-Bc 移行型:Bb 型と Bc 型の間隔的な形態をもった移行型。
- ・ Bc 型:1 蛇行区間に瀬と淵が 1 個存在する(B 型)。また、瀬は波立たずに淵に移行する(c 型)。

a) 「源流的な川」

「源流的な川」は、嘉瀬川や神水川に流入する沢筋や浦川の上流部にみられ、階段状の小滝が連続し、上空を樹林が覆う環境である。この環境における主要な生物としてミソサザイ等の鳥類、タカハヤ等の魚類、ニッポンヨコエビ、フタスジモンカゲロウ、オニヤンマ、オオヤマシマトビケラ、ムラサキトビケラ等の底生動物があげられる。

b) 「渓流的な川」

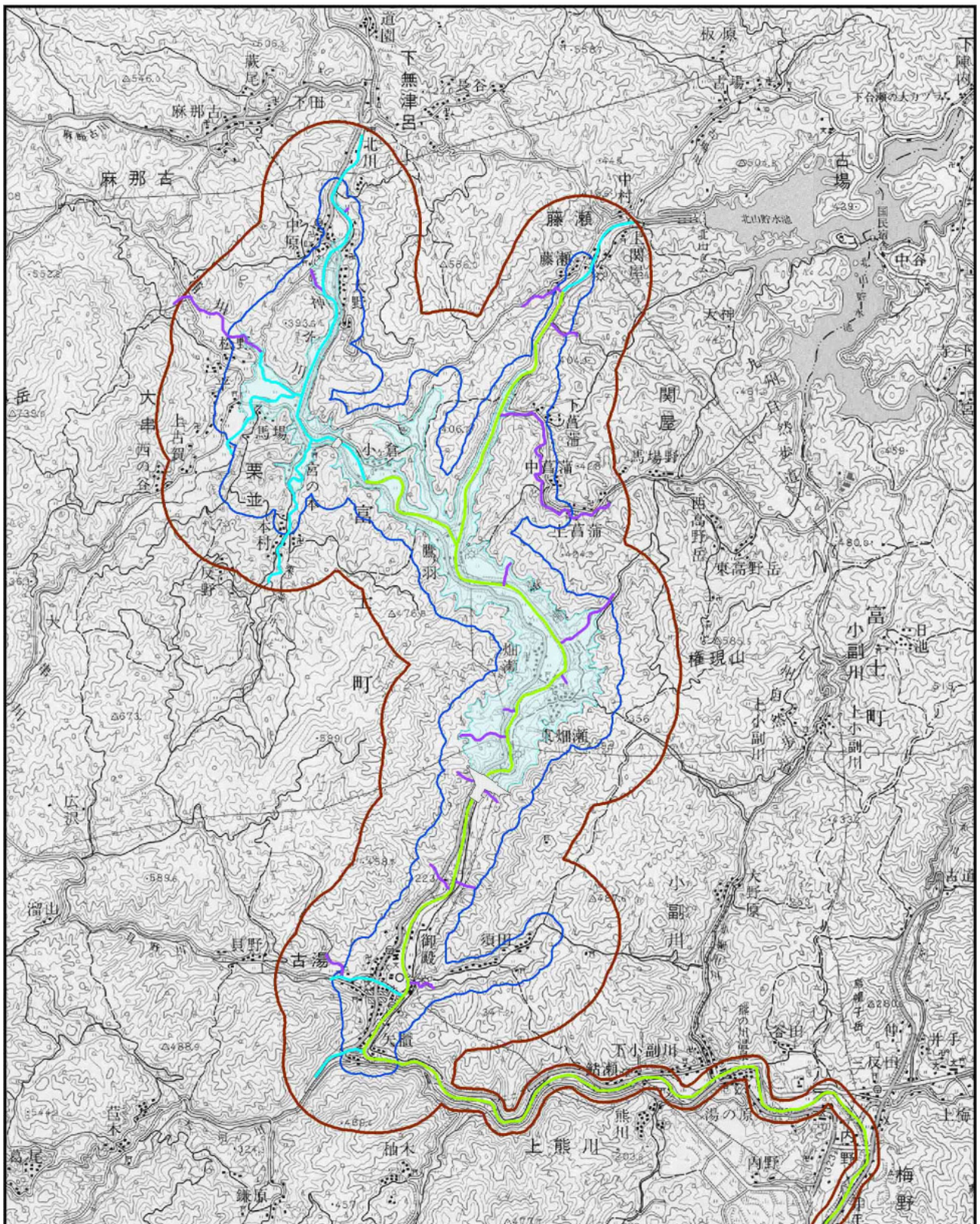
「渓流的な川」は、嘉瀬川の新小関付近、神水川の小ヶ倉橋より上流、浦川、大串川、栗並川、貝野川及び天河川にみられ、渓谷状の河道を、巨石や露岩をぬうように流下する。河岸にツルヨシがみられるが上空は概ね開いている環境である。この環境における主要な生物としてタカハヤ、ドンコ等の魚類、ナミヒラタカゲロウ、ウエノヒラタカゲロウ、スカシアミカ等の底生動物があげられる。

c) 「山地を流れる川」









「山地を流れる川」は、神水川の嘉瀬川合流前、嘉瀬川の鮎の瀬ダム付近より下流にみられ、やや緩やかな河道内にツルヨシがみられる環境である。この環境における主要な生物としてオシドリ、ヤマセミ、カワガラス等の鳥類、カジカガエル等の両生類、カワムツ、カマツカ等の魚類、E コカゲロウ、モンカゲロウ、キイロカワカゲロウ、アカマダラカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ等の底生動物があげられる。

d) 「平野を流れる川」

「平野を流れる川」は、嘉瀬川の下流部にみられ、大きく緩やかな澗筋、人為的に利用されている広い河川敷等により構成されるものである。この環境における主要な生物としてマガモ、ハクセキレイ、ツリスガラ等の鳥類、スナヤツメ、タナゴ類、カワヒガイ等の魚類、モノアラガイ、サホコカゲロウ、アオモンイトトンボ、ヒメゲンゴロウ等の底生動物があげられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : シイ、タブ等の常緑広葉樹やメダケ等に覆われた山腹の沢筋で、連続する小滝を流れ落ちる区間 (源流的な川)
-  : 崖地や山腹に挟まれた渓谷状の地形で巨石や露岩が点在する河道を流下する瀬淵が連続する区間 (渓流的な川)
-  : 集落が点在する山間部の開けた谷筋で砂州や石礫をツルヨシが覆う河道を流下する瀬淵がみられる区間 (山地を流れる川)



1:50,000

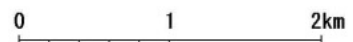
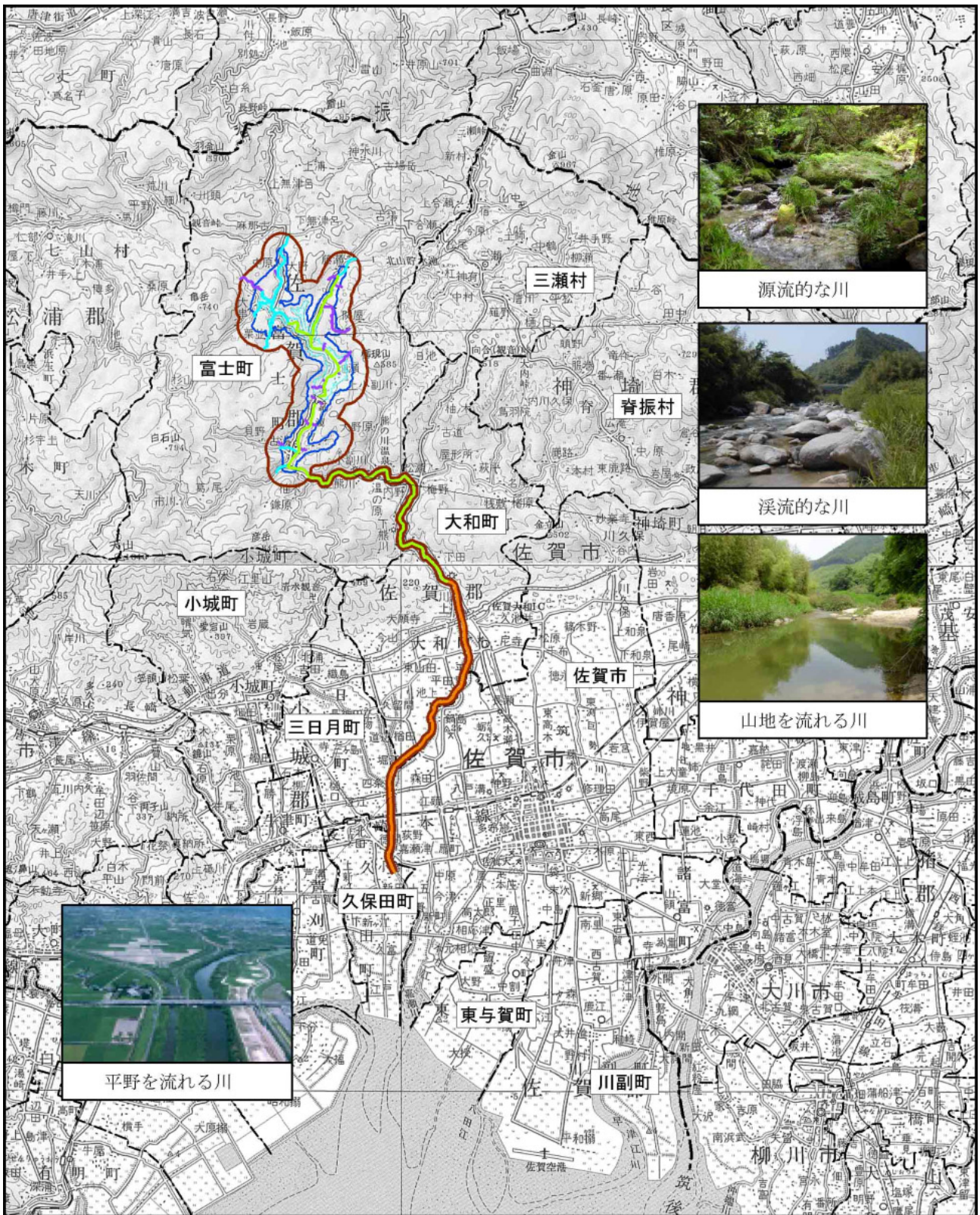


図4.1.7-9(1)  
河川域環境類型区分図  
(対象事業実施区域及びその周辺)



凡 例

- : ダム堤体
- : 貯水予定区域
- : 対象事業実施区域
- : 調査地域
- : 県界
- : 市町村界

- : シイ、タブ等の常緑広葉樹やメダケ等に覆われた山腹の沢筋で、連続する小滝を流れ落ちる区間(源流的な川)
- : 崖地や山腹に挟まれた溪谷状の地形で巨石や露岩が点在する河道を流下する瀬淵が連続する区間(渓流的な川)
- : 集落が点在する山間部の開けた谷筋で砂州や石礫をツルヨシが覆う河道を流下する瀬淵がみられる区間(山地を流れる川)
- : 都市郊外の水田地帯の中で、グラウンドやゴルフ場などに利用されている河川敷を有する堰により制御された流れの緩やかな区間(平野を流れる川)



1:200,000

0 1 2km

図4.1.7-9(2)  
河川域環境類型区分図  
(対象事業実施区域及びその周辺、嘉瀬川)



シイ、タブ等の常緑広葉樹やメダケ等に覆われた山腹の沢筋で、連続する小滝を流れ落ちる区間  
(源流的な川)

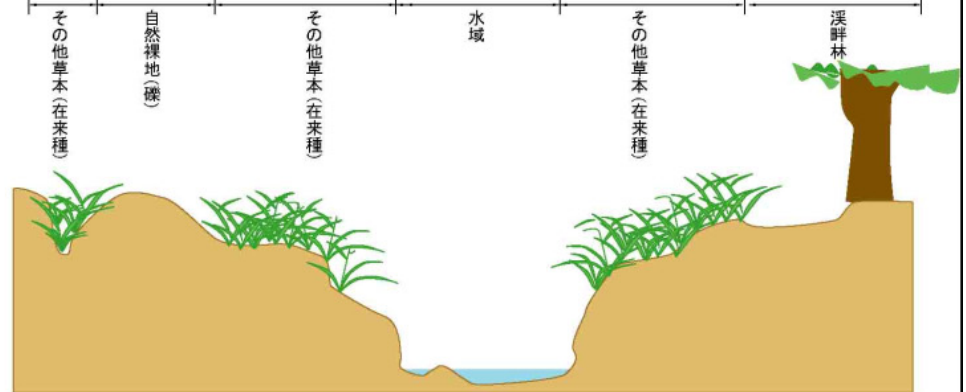
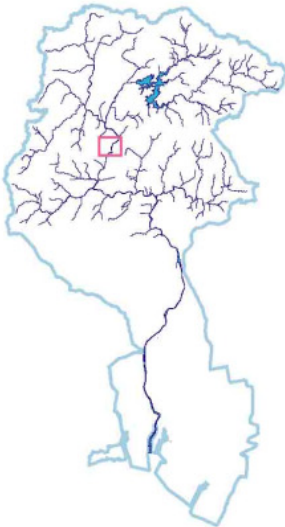
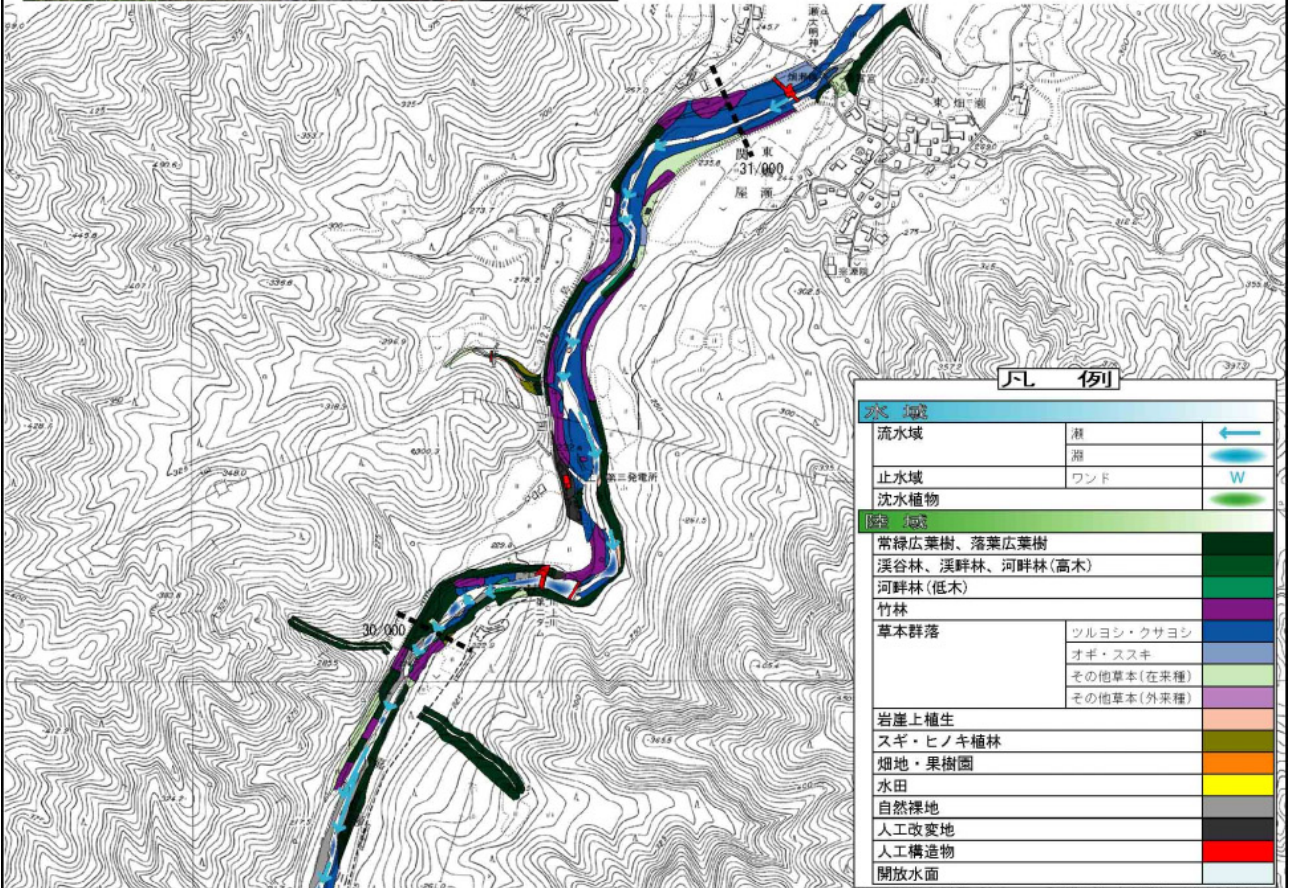


図4.1.7-10(1)  
典型性(河川域)環境類型区分の一例



崖地や山腹に挟まれた溪谷状の地形で巨石や露岩が点在する河道を流下する瀬淵が連続する区間  
(溪流的な川)

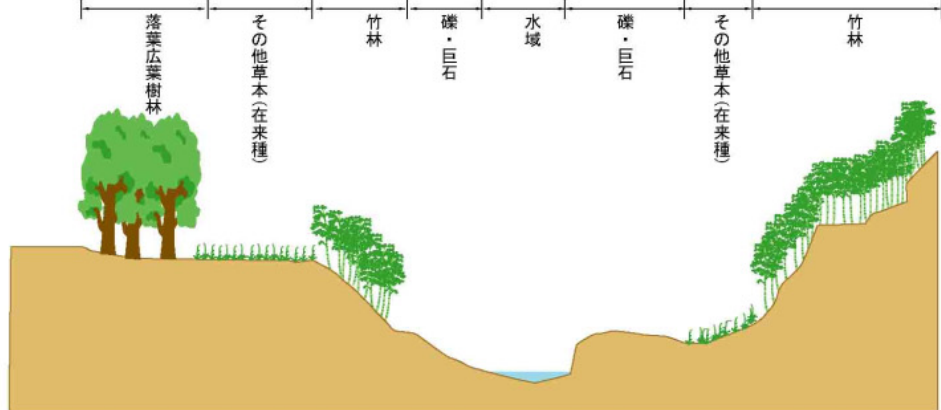
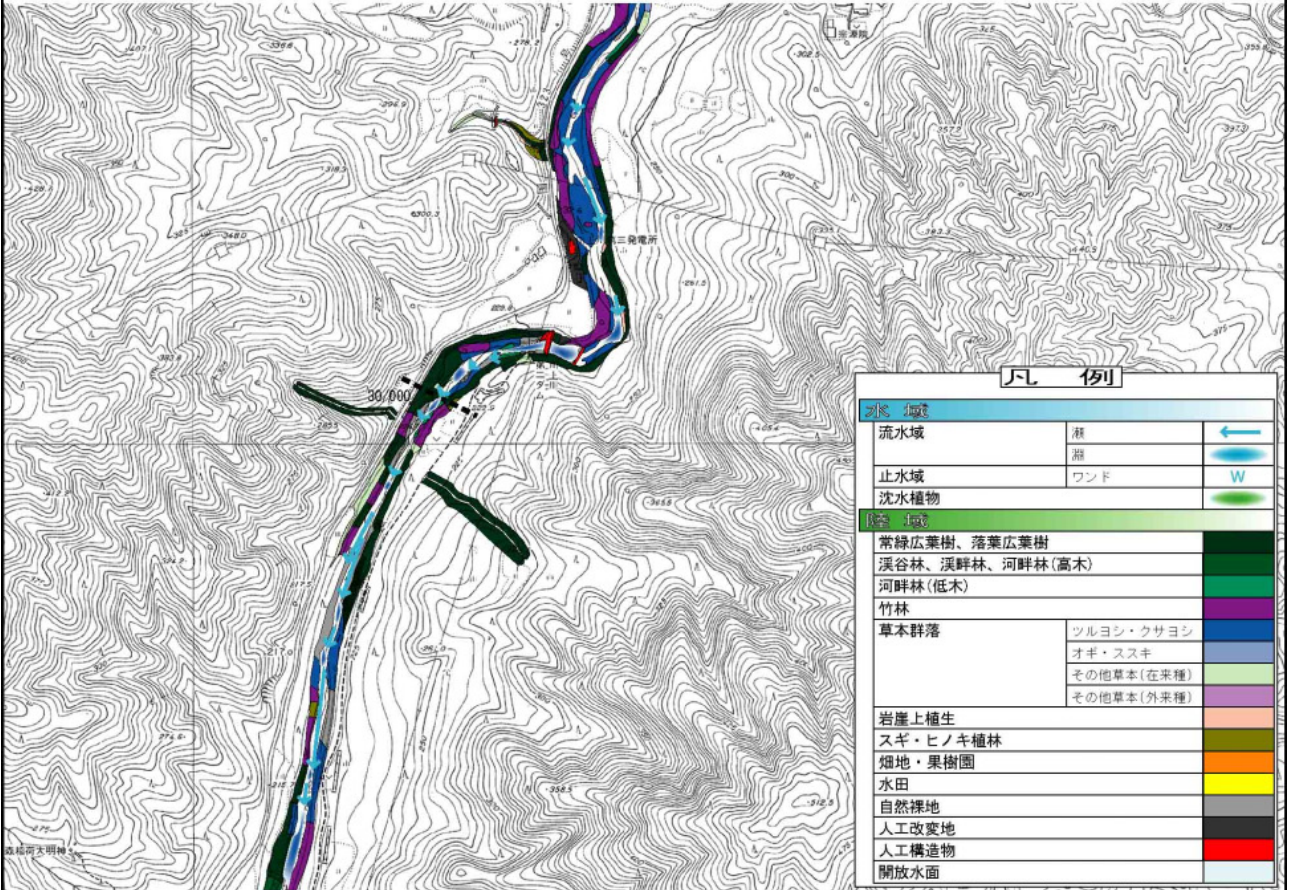


図4.1.7-10(2)  
典型性(河川域)環境類型区分の一例